

音楽科 学習指導案

日時 平成16年11月10日(水)

学級 3年4組(男子16名女子17名計33名)

指導者 教諭 橋本昌子

1 題材名 三味線音楽の世界

2 題材について

(1) 教材観 ・学習指導要領の指導事項鑑賞(1)ウでは、「我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽の多様性を理解して聴くこと」とある。また鑑賞(1)エでは、「音楽をその背景となる文化・歴史や他の芸術とのかかわりなどから、総合的に理解して聴く」とある。特に3年間を通じて1種類以上の和楽器を用いることが求められ、本校においては表現活動と鑑賞活動とのかかわりを踏まえながら指導の系統性・発展性を考えて指導している。

・和楽器を体験し、我が国の伝統的な音楽文化のよさに気づき、それらを尊重しようとする態度を育成することは、これからの音楽科の重要な課題であると考えらる。

・これまでの日本の音楽の指導を振り返ってみると、三味線音楽については、長唄「勧進帳」をメインに、歌舞伎という総合芸術について総論的に学習させることが多かった。この題材では三味線の構造上最も特徴的な「サワリ」と構造の特徴に焦点を当てることによって、各論的な扱いをして、学習のポイントを絞り学習させたい。

(2) 生徒観 ・1年次に篠笛を使ったわらべ歌の演奏、2年次に箏曲「六段の調」を学習している。感動や発見、また気づきなどをおおらかに表現することは特に積極的であるとは言えないが、自分なりのイメージや想像をふくらませたり、疑問を解決しようとする姿勢がある。地域の祭り囃子が一番身近な日本の音楽といえるが、近年狂言師や箏楽奏者また歌舞伎役者、津軽三味線奏者などがマスコミに登場し話題になっていることから、断片的に興味を示したり、知識を持ったりしている生徒もある。

3 「基礎・基本の確かな定着」を実現するための指導構想

(1) 教科の特質(西園芳信鳴門教育大学教授による)

音楽活動の基礎的な能力とは、学校での音楽学習を通じ生涯にわたって音楽を生活に生かし、演奏したり鑑賞したりして楽しむために必要な能力である。生徒が表現や鑑賞の学習を通して音楽とかかわり、音楽の価値を理解した上で、持続的な愛好心を育むことがねらいである。生涯にわたって音楽にかかわり、人間的な成長を伸張していくための能力とは、

音楽の構造的側面 (構成要素 表現要素) - 知覚

音楽の感性的側面 (雰囲気 曲想 豊かさ 美しさ) - 感受

音楽の文化的側面 (風土 文化 歴史) - 知覚・感受・理解

音楽の技能的側面--(歌唱表現 演奏表現)--表現

音楽の情意的側面 (関心 意欲 態度) - 学習成立のための情意的意識

これらの諸能力の中で、基礎的な能力とは と の両方を感じ取る能力をいう。

(2) 本題材の具体的な方策

本題材の内容から、次のように基礎・基本としておさえ、指導展開を工夫する。

三味線の音色や響きの特徴を感じ取る。

祭囃子の体験を通して三味線音楽への興味・関心を高める。

これらを定着させるために、次のような手立てをする。

映像資料や音源資料の中から厳選したものを提示して、視点が集中するようにする。

学習シートの内容を吟味して、生徒が自分の学びの確かめができるようにするとともに、内なる思いを表出する場を設ける。

題材の学習の中で、生徒がつけるべき力を目標として具体的に示す。それを基にして評価する。

4 題材の目標

- (1) 観点1 三味線の音色や響きの特徴に関心を持つ。
- (2) 観点2 三味線の音色や響きの特徴を感じ取る。
- (3) 観点4 三味線の特徴を理解して、様々な三味線音楽の表現や味わいの違いを聴き取る。

5 題材の指導・評価計画（2時間扱い 本時1/2時間）

時	学習内容	評価規準			評価方法
		観点1	観点2	観点4	
1	三味線の音や音楽に親しむ	三味線の音色や響きに関心を持ち、聴いたり観察したりしようとする。	サワリや構造によるより味わいの変化を感じ取っている。	三味線の音色や響きの特徴を聴き取っている。	行動観察 学習シート 発表表現
2	多様な三味線音楽に親しむ。	三味線の基本的な奏法を体験しようとする。	多様な三味線音楽の違いによって変わる印象を感じ取っている。	多様な三味線の表現や奏法を味わって聴いている。	行動観察 学習シート 発表観察

6 本時の指導

- (1) 主題 三味線の味わいのなぞを探ろう
- (2) 目標 三味線の音の特徴を感じ取ることができる。

観点	具体の評価規準		「努力を要する生徒」への手立て
	A（十分満足できる）	B（おおむね満足できる）	
1	三味線に関心を持ち、撥弦楽器の音を聴き取り、三味線の音の特徴を十分に聴き取り適切に記述している。	三味線に関心を持ち、撥弦楽器の音の違いに気づき、楽器の名称を書こうとしている。	音色に興味を示さない生徒にはこれまでの経験や記憶をたどらせてみる。
2	サワリや構造による三味線独特の音の特徴を探り出し、その機構の特徴を発見できる。	サワリや構造による三味線独特の音のわけを探ろうとする。	音色の特徴に気づかない生徒には、音のにごり感と透明感の違いに着目させる。
3	三味線の音の特徴を聴き取り、感じ取ったことを自分の言葉でまとめ、発表することができる。	三味線の音の特徴を聴き取り、感じ取ったことを簡単にまとめることができる。	三味線の音の味わいについて、感じたことを学習シートにまとめることができない生徒には、学習によって新しい発見がないかどうか考えさせる。

- (3) 構想 三味線を含め、いろいろな撥弦楽器の音を聴かせ、三味線だと思われるものを判断させる。またなぜそう思うのかも記述させることによって評価の手立てとする。発音の共通性として「弦をはじく」ということを指摘できるであろう。その中で一種類ではなく似たような音があることの気づきを取り上げて、いわゆる三味線らしい音がどのようにして発音されるのかを探ることを本時の目標に設定する。

「べーん」とか「びょーん」とかいうふうに表現する三味線独特の音は三味線の構造的な特徴から来るものであり、それは伝来して以降日本人の先達が工夫しながら様々な芸能との融合を図りながら変化させてきたものであることを理解させたい。

段階	過程	学習活動	指導上の留意点	学習形態 資料・教具
導入	課題確認	<p>1 これまでの日本の音楽の学習をふりかえらせ、本題材の内容と学習目標を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><学習課題> 三味線独特の音色はどのようにして作られるか予想しよう。</p> </div>	<p>1 学習を通して何を身に着けるべきかを理解させるように話す。総合的な学習との関連性にも触れる。</p>	
展開	課題追究	<p>2 さまざまな撥弦楽器の音を聴き、音の印象を言葉で表現し、何の音かを考え学習シートに書き込む。</p> <p>ギター 琵琶 箏 三味線（義太夫） 三味線（津軽三味線） 三味線（一中節）</p> <p>3 聴き取った結果を発表し交流する。</p> <p>4 三味線独特の音の味わいがどこから生み出されるものなのかを探る。</p> <p>5 考察したことを発表する。</p> <p>6 サワリや構造の特徴について説明を聞く。</p> <p>7 三味線を使ったいろいろな楽曲を鑑賞する。</p>	<p>2 意見交換しながら考えさせるが、自分の印象や発想を大切にさせる。特になぜそう思ったか感じたかを書けるよう促す。</p> <p>3 単に当たったことだけでなく、級友がどんな印象を受けたのかを知る機会にさせる。</p> <p>4 棹・糸・駒のほか構造について注目させながらギターとの比較によって推測させる。</p> <p>5 発想を生かすようにする。</p> <p>6 実際に師範しながら味わいを感じ取らせるようにする。</p> <p>7 次時の学習につなげるように、映像とともに鑑賞させる。</p>	<p>一斉 CD 学習シート</p> <p>紙板書 三味線イラスト ギター</p> <p>VTR LD</p>
終末	まとめ	<p>8 学習の振り返りをして、感想や発見事項を学習シートにまとめる。</p>	<p>8 これまでどの程度知っていたか、学習によって変化があったかが伝わるような書き方をするようながす。</p>	